

◇ 模擬講義のテーマ ◇

「スポーツにおける意図的なルール違反」

◇ 《設問1》(模擬講義の要点整理)の解答例 ◇ ※下線部はキーワードの使用例

スポーツは、その種目をそれとして成り立たせる上で必要な「構成的ルール」によって成り立っている。また、ルールには、ルールブックのように書かれているルールもあれば、慣習のように書かれていないルールもある。そして、ルールは文脈に応じて解釈されなければならない。スポーツ哲学という学問においては、これまで、意図的なルール違反に対する審判の判定およびルールの解釈をめぐって議論がなされてきた。(191字)

※キーワード

構成的ルール、文脈、解釈(≒審判の判定)、意図的(な)ルール違反

◇ 《設問2》の論題と評価の視点 ◇

〔論題〕

A県の少年サッカー大会〔5・6年生：公式戦〕で2010年W杯のウルグアイ対ガーナにおける「スアレスのハンド」と同じような事例がありました。そのとき両チームの監督と審判が話し合っ、反則をした選手にはレッドカードを出して退場とし、反則により防がれたゴールに1点を与えました(いわば「認定ゴール」としました)。両チームの選手達は、この監督と審判の判断に納得しました。

あなたは、この試合における監督・審判の判断に賛成しますか？それとも反対しますか？結論と理由を600字以内でまとめなさい。

〔評価の視点〕

- ・おおむね500字以上書かれており、結論が示され、その理由もおおむね適切であれば、得点率60%を基準とします。
- ・「文脈」について述べられており、内容も適切である場合には、得点率80%を基準とします。
- ・論点(理由)の数、質(説得性・論理性)に応じて一定のプラス評価をします。例えば、次のような論点が考えられます。
  - ① サッカーの本質(手を使うことはサッカーの本質に反する／マリーシア(するいプレイ)もサッカーでは重要)
  - ② サッカーの面白さ(ハンドの反則はサッカーの面白さを損なう／ずるいプレーもサッカーの面白さの一つ)
  - ③ 公平性(ハンドの罰則としてPKは不十分／ハンドの罰則としてPKで十分)
  - ④ 当事者間の納得・同意(選手が納得しているのだから…／選手が納得していようと…)
- ・ルールの解釈のみならず、ルールのあり方や新たな解決法(例えば、サッカーに「認定ゴール」を導入すべき、など)を示している答案には一定のプラス評価をします。
- ・行頭の文字下げや段落分けが不適切な箇所があったり、誤字・脱字がある場合には、一定の減点をおこないます。